

ARRIDE / アジア経済研究所学術研究リポジトリ

高木敏朗

ARRIDEはAcademic Research Repository at the Institute of Developing Economiesの略称である。研究所の英語名も入れて、機関リポジトリ名前順のリストではトップの方に来るように、少なくとも最初の画面に入るように意図的に命名したものである。ARRIDEは英語では古語で「満足させる」という意味もあり、とても良い名称と思いませんか。しかし、残念ながら、スウェーデンのAcademic Archive Online プラス大学名が増えたので、今では最初の画面からはみ出てしまった。きっと、スウェーデンもAAから始まる名前を考えたに違いない。

ARRIDEの公開時期(二〇〇六年八月)は、日本では早いグループに入る。それだけに試行錯誤があった。公開前には実験サーバが一年ほど稼動していた。論文を掲載するディレクトリ構造は、「アジア経済」や「現代の中東」のような雑誌名をそのままディレクトリにしていたが、登録を始めると、不向きであることがわかった。短期間に終わってしまった雑誌や名称を変更した雑誌があることが原因であった。そうした雑誌のディレクトリの下には新しい論文は登録されず、更新されていない印象を与えてしまう。次に考えたのが、研究所

の組織を反映させ、地域研究センターの研究員が執筆した論文は「地域研究センター」というディレクトリの下に登録するということであった。ところが古い論文を遡及して登録しようとすると困った事態が生じることがわかった。それは地域研究部や動向分析部といった部門が組織変更で無くなってしまったことである。それらを踏まえて現在のディレクトリの構造が生まれた。先ず、地域別に「東アジア研究」、「東南アジア研究」など一〇地域にし、その下に、主題別に「経済・産業」、「政治・国際関係」、「社会」、「法律・行政」、「その他の分野」の五分野を作った。どのディレクトリの下にも新しい論文が登録されるし、このディレクトリの構造は強固で将来も変わらない。その後、雑誌名から閲覧したいという要望に答え、「アジア経済」、「デイスカッションペーパー」などのディレクトリも作成し、登録された論文は、地域主題別と雑誌名のディレクトリから閲覧できるようにした。

六五万件の論文と一万八〇〇〇を超える著者が登録されている経済学分野のデータベースRePEcがある。アジア経済研究所は経済学を中心とする研究所であるので、そこに研究所の論文を送り込むというのがARRIDE構築のひとつの目的でもあつ

た。RePEcを通してエルゼビア社のScirusや、科学知識の共有を目指すScientific Commonsにも収録されるので、RePEcに登録することは大きな意味がある。そして、登録される論文は機関リポジトリという世界的に学術情報と認識されたサイトの論文ということが重要であった。英文の「デイスカッションペーパー」はRePEcに創刊号から登録されている。日本からは二九五の機関名がRePEcに登録されているが、そのうち一一の機関が論文を登録している。

ARRIDEへの海外からのアクセスが増加しているので、こうした世界的なデータベースに論文を供給するという戦略が功を奏し、国際的な研究所の認識向上に役立つということが証明された。機関リポジトリ構築の意義は研究成果へのアクセスを向上させ機関の学問的、社会的、経済的妥当性を証明し、機関の視認性と存在価値を高めることにもあるので、ARRIDEは成功していると自負している。

(たかぎ としろう / アジア経済研究所図書館)